

◇観察コース5 — 南下浦中学校周辺 —

南下浦中学校周辺は、地層観察にとっても恵まれていて、一般の観察コースにもなっている南下浦断層の大露頭が3カ所も見られます。また初声層、宮田層、関東ローム層などが見られ、特に宮田層では化石の採取もできます。50分程度の観察コースとして素晴らしいので、断層のすごさ、地層や岩石の違いなどをじっくり観察してみましょう。



ポイント1] 技術棟裏の初声層の露頭

- (1) 初声層の露頭です。地層の面はどんな傾きをしているか観察してみましょう。
- (2) 宮田層はどこにあるか、見つけてみましょう。



写真1

ポイント 2] 給食棟裏の南下浦断層の大露頭

- 1) 現在も動く可能性の大きい断層を何といいますか、調べてみましょう。
- 2) この断層に向かって左側の地層と右側の地層では、どちらが宮田層ですか。また、どのように動いたものか、観察してみましょう。



写真 2

[ポイント 3] 体育館横の初声層と宮田層の露頭

- (1) この場所は上が初声層で下が宮田層でできています。その境どこにあるか、観察してみましょう。
- (2) このような境目を何といいますか、調べてみましょう。



写真 3

[ポイント4]

病院坂の南下浦断層の大露头

- (1) 向かって左側と右側の地層はそれぞれ何層なのか、調べてみましょう。
- (2) もし、[ポイント2] とつながっているなら、どこを通っているか考えてみましょう。



写真 4

[ポイント5]

病院坂の関東ローム層

- (1) 関東ローム層は火山の噴火で噴出した火山灰が堆積してできたものです。火山灰は灰色なのに、なぜ積もった関東ローム層は赤茶色なのでしょうか。
- (2) この辺一带の関東ローム層はどこの火山の噴火によって積もった火山灰ですか、考えてみましょう。



写真 5

[ポイント6]

菊名海岸での南下浦断層の大露頭
菊名海岸で南下浦断層の断層面を見つ
けて、スケッチしてみましょう。



写真6

ポイント7] ゴミ置き場の近くで棄てられた宮田層の土の山
大きい石を見つけて、割ってみましょう。何かが出てきますよ。



写真7

〔ポイント1〕 層理面がはっきり見える初声層の露頭で、ゴマシオ凝灰岩、ピンク凝灰岩、白軽凝灰岩などを含みます。地層の傾きは垂直に立っていて、もともと地層は水平にたい積すると考えられますので、すごい力で押されたことがわかります。がけの一番上にある水平な宮田層との不整合が少し見られます。

〔ポイント2〕 過去1000年で数cm動いた跡がある活断層で、断層面がとても観察しやすい大露頭です。向かって左側の初声層が上向きで右側の宮田層が下向きに動いているのが観察でき、両方から押された逆断層であることがわかります。平成12年1月には菊名地区でトレンチ調査が行われました。（トレンチ調査とは、実際に土を掘り地中の地層の様子を調べることです。写真8）



写真8

〔ポイント3〕 上が柔らかい宮田層で、下が固い初声層で境目である不整合面が観察できます。場所によっては水平ではなく、下にえぐれている所もあります。宮田層を掘ると貝の化石が見つかります。階段を上がり、旧校舎跡地に行くと、さらに不整合がよく観察できます。



写真9

〔ポイント4〕 左側が初声層で、右側が宮田層でできています。南下浦断層の露頭で、〔ポイント2〕 からつながっていると考えられるので、断層面は給食センター・体育館・旧校舎跡地の下を通っていることがわかります。

〔ポイント5〕 関東ローム層は火山灰が積もり、長い年月を経て、火山灰中の鉄分が空気中の酸素によって酸化して赤茶色に変化したものです。主として関東ローム層は箱根や富士山の噴火によって飛んできたものと推定されています。

〔ポイント6〕 断層面は海岸で2つに分かれています。干潮で大潮の時などは、かなり先まで観察できます。海岸でこのような断層面が観察できるのはとてもめずらしいといわれています。

〔ポイント7〕 南下浦小学校のグラウンドを掘った際、削った土砂の棄て場所がないので、南下浦中学校のゴミ置き場の裏に棄てたもので、宮田層の柔らかい土でできています。初め生徒が化石が出ると言ってきて、調べてみたら、いろいろな貝と葉の化石が見つかりました。現在は違う土を入れて車が通れるようにしていますが、まだまだ化石が出そうな宮田層の岩石は沢山残っています。



写真10



写真11